



	7月				8月			
	最高気温	最低気温	平均気温	雨量(mm)	最高気温	最低気温	平均気温	雨量(mm)
本年	32.9	26.4	29.0	22.0	33.1	26.7	29.4	564.0
平年	31.3	26.0	28.3	153.3	31.9	26.0	28.6	105.7
平年との差	+1.6	+0.4	+0.7	-131.3	+1.2	+0.7	+0.8	+458.3

## 大雨・冠水被害



9月4日の集中豪雨により、喜界町の全域に亘り被害が出ました。キビ作農家の方々におかれましても被害は少なくないかと思われます。土砂・土石・流木が流れてきている圃場も確認されています。それら堆積物は、刈入れ作業を困難にする原因になると思われます。

これから刈入れ時期まで、忙しく大変な事とは思いますが、今一度圃場の見廻りをして頂き、圃場に土砂・土石・流木等があり、ハーベスターの作業等に支障をきたす恐れのある場合は撤去をお願い致します。



被害にあわれた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

もしものために!!!

備えあれば憂いなし!!!

9月4日の豪雨で横倒、冠水した圃場です。



さとうきびが横倒しになっています。



大雨で冠水した圃場です。

4日の記録的短時間大雨も「50年に一度の災害」と言われますが、この先50年が安泰とはいえません！

今年、喜界島は「50年に一度の災害」といわれる大雨に直面しました。この大雨は、家屋の被害や土砂災害等の大きな爪痕を残しました。島の基幹作物であるさとうきびをはじめ収穫間近であったゴマなどの農作物にも被害を及ぼし、その損害は雨による被害としては過去に例を見ないものとなりました。さとうきびの圃場においては、写真のような大きな被害を被った圃場も至る所に見受けられます。災害による被害は大きな「減収要因」のひとつです。そこで「減収」を補償するために共済制度と呼ばれるものがあります。過去には無かった台風以外の自然災害も今後は「減収要因」となりうる現在、あらためて「共済」への加入を検討してみてもはいかがでしょうか？現在では以前に比べると、少ない掛け金から加入出来る設定もされ農家負担は軽減されてきてます。

# さとうきび夏植・秋植に向けた管理の要点

## 単収向上のために！

さとうきびの10アール当たりの単収は何で決まるか？

1本当たりの茎の重さがどれくらいか（原料茎重）  
10アール当たりの茎数が何本あるか（原料茎数）

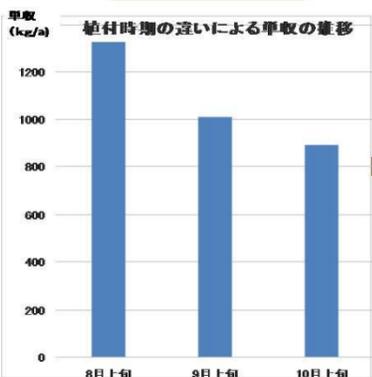
単収を上げるには…  
原料茎数を増やす  
原料茎重を大きくする

適期植付で単収の確保を図る

8月			9月		
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬

植付け適期

原料茎重を大きくする



植付け時期の違いによる単収の推移

9月単収(17アール当たり) 1,009kg  
10月単収(17アール当たり) 892kg  
1ヶ月の差(17アール当たり) 117kg  
10アール当たり約2万円相当

## 圃場の準備



土づくり

土壤改良材の施用

有機物(堆肥、緑肥、ハカマ等)の施用

深耕

土壤酸度の矯正(土壤6.0)  
土壤PH 5.0⇒約140kg(7袋)  
" 4.6⇒約200kg(10袋)

・堆肥、緑肥→10アール当たり2t  
・ハカマなどのすき込み  
→石灰窒素10a当り30~40kgを散布してすき込む

目標 表土の厚さ 30cm  
深耕・心土破砕 60cm

## 植付後の管理作業として！

除草

適期の中耕

原料茎数を増やす  
原料茎重を大きくする

除草の基本的な考え方

雑草の種類や生育時期に合った除草剤の適期散布

除草剤名	種類	10アール当たり使用量 (10アール当たり希釈水量)	使用時期	使用回数
カーメックス-D	土壤処理	100~150g (70~100ℓ)	植付覆土後または培土後	1回
セルコン水和剤	土壤処理	300g (100ℓ)	植付直後~植付45日後 (雑草2葉期まで)	1回
	茎葉処理	100~200g (100ℓ)		
アージラン液剤	茎葉処理	800~1000ml (150~200ℓ)	雑草生育初期 (雑草草丈10~15cm)	2回
2,4-Dアミン塩	茎葉処理	300~500g (100ℓ)	植付後または株出管理後 30日以降~雑草生育期 (収穫90日前まで)	2回

※ 土壤処理剤: 雑草が生える前に散布し除草する。

## 夏・秋植推進について

### 夏植・秋植のメリット

年度	夏植	春植	株出	合計	比率
H13	617	98	418	1,133	54
H14	553	104	449	1,106	50
H15	591	102	435	1,128	52
H16	579	83	428	1,090	53
H17	601	61	364	1,026	59
H18	649	71	376	1,096	59
H19	611	68	498	1,177	52
H20	559	103	553	1,215	46
H21	532	119	611	1,262	42
H22	490	129	624	1,243	39
H23	477	145	658	1,280	37
H24	406	138	729	1,273	32
H25	418	132	740	1,290	32
H26	412	151	830	1,393	30
H27	331	163	837	1,331	25
H28	378	147	894	1,419	27

夏植・秋植⇒栽培期間(約16~18ヶ月)

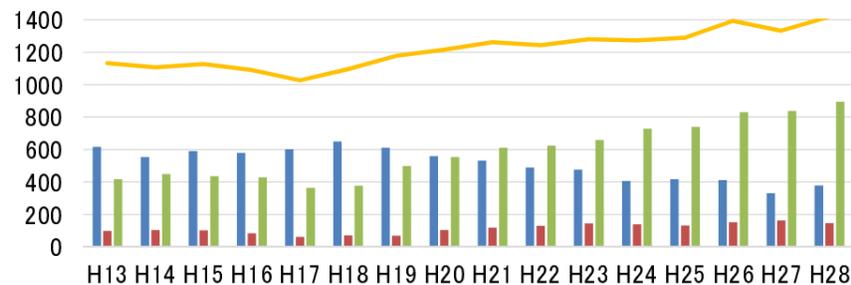
株出⇒栽培期間(約12ヶ月)

栽培期間が長期、茎長が長く台風襲来時に倒伏するため折損等の被害が少ない。生産量が安定している。

栽培期間が短期、茎長が短く台風襲来時に折損等の被害が夏、秋植より大きい。気象条件に左右され、生産量が不安定。

年度・作型別面積の推移について

■夏植 ■春植 ■株出 ■合計



近年春植・株出体系の確立や株出管理機の普及、一芽苗等の補植技術の向上により株出面積が増加した。一方で干ばつや秋雨等の気象要因による植付の遅れ等により、徐々に夏・秋作付面積が減少傾向にあります。

- 栽培期間が18ヶ月と長く生産量が安定している
- 台風襲来時も倒伏することで折損被害が少ない

## 植付について

★病害に強い奨励品種を栽培しましょう。

◆病害抵抗性

	黒穂病	モザイク病	葉焼病	さび病
NiF 8	強	強	強	強
Ni 22	中	やや強	強	やや強
Ni 23	弱	強	強	やや強

NiF 8

\*早熟、高糖、多収で可製糖量が多く、主要病害に対する抵抗

Ni 22

\*発芽、生育初期からの茎伸長が良い。早期高糖で12月収穫も可能。

Ni 23

\*発芽が良く、茎伸長に優れ、可製糖量が多

重要!

- ※ 抵抗性品種を植付ける。
- ※ 採苗時にペントール等の薬剤や消石灰等で消毒する。
- ※ 病害が発症したら迅速に除去処理をする。

## 編集後記

今年製糖期が4月下旬近くまで延び、株出管理・春植が遅れ気味であったが、5月初旬の梅雨入後1ヶ月近く降雨が無かった事が管理作業の遅れを取り戻す形となった。例年になく農家の方々が畑に入って管理している姿を見かける機会が多かったように思われます。また、管理作業が終わった頃合いを見計らったように恵みの雨もあり、順調な伸びを見せていました。

梅雨明け後の干ばつで緩慢となったさとうきびの生育も8月の降雨で回復基調を見せ順調な伸びを見せていたところに今回の豪雨！「人間万事塞翁が馬」とは中国の故事ですが、地球温暖化のあおりを受け気象災害においてもこれまでの常識が通用しない環境になりつつあります。収穫までの間、願わくは台風をはじめとする大きな気象災害に見舞われず、さとうきびが順調に生育することを祈るばかりです。